



# 同好会ひろば

第303号  
R6. 8. 6  
No.3

## ～今後の予定～

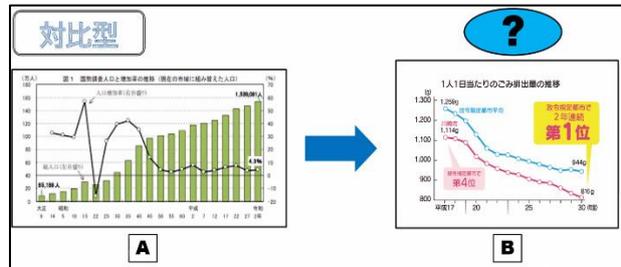
- 8月22日(木) 14:00～ 夏休み特別企画オンラインナゴヤ社会科クラブ
- 8月29日(木) 18:00～ 第二回授業づくり講座(名古屋市教育館にて)
- 9月12日(木) 19:00～ 小学校部会(港区 小碓小学校にて)
- 9月12日(木) 19:00～ 中学校部会(中区 伊勢山中学校にて)

## 「第一回オンラインナゴヤ社会科クラブ」 6月25日(火)

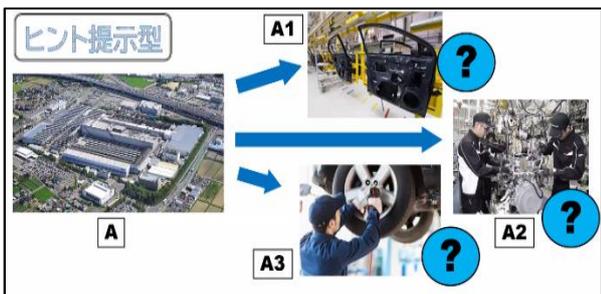
同好会員の「学習問題のつくり方を教えてほしい」「学習問題をつくる際に気を付けていることが知りたい」という声に答えるため、『どうする？学習問題づくり』をテーマとして、第一回オンラインナゴヤ社会科クラブを開催しました。

当日は20時から始まり、若手会員を中心に30名近くの方にご参加いただきました。学習問題をつくるには、まず子どもから疑問や気付いたことを引き出す工夫が必要です。その例として、三つの「型」があることを紹介しました。また、学習問題づくりに関する疑問を集めたり、これまでの実践を紹介し合ったりしました。

今後も、オンラインナゴヤ社会科クラブは、「耳だけの参加OK」「途中参加・退出OK」「服装自由」「飲み物片手に」など、誰でも気軽に参加することができるような雰囲気で行います。月一回の開催を予定しておりますので、ぜひ、ご参加ください！



対比型では、複数の資料を対比させることで、子どもの「AなのにBなのは、なぜ？」という疑問を引き出します。



ヒント提示型では、複数の資料を手掛かりとして示すことで、子どもの「〇〇じゃないか」という具体的な予想を引き出します。



対立・討論型では、複数の資料を対立させることで、子どもの「〇〇を優先すべきだと思う」という立場を意識した予想を引き出します。

## 【小学3年生の実践】

地域の菓子店を取り上げ、種類の多さ(約 60 種類)や作る量(1日約1万個)、和菓子だけでなく洋菓子まで作る事などに驚きをもたせました。その後、子どもたちの「こんなにも、どうやって作っているの?」という疑問を、学習問題へとつなげました。



## 【小学4年生の実践】

実際に木曾川を訪れ、川の水と学校の水とを比較しました。どちらも同じ川の水にもかかわらず、学校の水は塩素反応がありました。子どもに「どうして学校(名古屋)の水は、ピンク色になったのだろう」という疑問をもたせ、学習問題へとつなげました。

### 参加者



我が子が小さいこともあり、オンラインで参加することができたのは、大変ありがたかったです。

学習問題を教師側から与えてしまうことが多かったので、子どもの疑問や予想から立てられるようにしたいです。次回は、社会科における個別最適な学び方をどのように進めていくとよいのか学びたいです。

### 参加者



## 第二回ステップアップ研修全体会」 7月18日(木)名古屋市教育館にて

名古屋市社会科研究会 委員長 長根台小学校 後藤俊輔先生を講師としてお招きし、「研究の成果と課題の分析」というテーマで、ステップアップ研修受講者や指導者に向けて、お話をいただきました。ご自身の経験や趣味などを織り交ぜ、具体例を示しながらお話をしていただいた中から、2点紹介させていただきます。



1点目は、「評価基準」(=評価の指針、よりどころ)についてです。この「評価基準」を実践の計画段階で設けた上で、研究に取り組むことが大切になると、教えていただきました。

「評価基準」をつくるためには、漠然と手立てを講じるのではなく、子どもをどう伸ばしたいかという「手立ての意図」を具体的かつ明確にもつことが必要です。その上で、その「手立ての意図」通りに、または、目指す子ども像通りに、子どもが伸びたかを検証していくことが、成果と課題の分析であるとのことでした【資料①】。

2点目は、「成果と課題の分析」についてです。成果と課題をどのように記述するとよいか、書き方の具体例を示しながら、教えていただきました。

まず、実際に記載するかは別として、「〇名中、〇名いた」と具体的な数で言えるように、評価基準に照らして子どもを評価します。成果では、「どうしてできたのか」という要因を探して、記述することが大切になります【資料②】。また、課題でも、「——だったことが原因である。そのため(対策)する必要がある。」と、原因を見だし、それに対する対策を記述することが大切であるとのことでした。

ご講話の最後に、名古屋市社会科研究会の委員長というお立場から、今後も同好会活動が活気あるものになってほしいという願いや、受講者には積極的に同好会が開催する会に参加して自己研鑽に励んでほしいというお話をいただきました【資料③】。

☆ 評価基準をつくるために (研究の基本的構造)

手立て①	+	手立て②	=	目指す子ども像 または 主題
------	---	------	---	----------------------

<例>

加へ消費するための 筋トレや運動	+	加へ過剰摂取を防ぐための 夕飯白米と間食抜き	=	やせる42歳 (-10kg)
加へ消費するための	+	加へ過剰摂取を防ぐための	=	やせる(-10kg)

手立ての意図  
⇒手立てで子どもがどうなるか、子どもをどうしたいか  
→ 具体化が評価基準につながる

研究の構造をしっかりとつくり手立ては、意図を明確にしよう

### 【資料①】

☆ 成果の書き方例

〇 ~~~できた(←評価Aを指す)子どもが、〇名中、〇名いた。それは、(手立て)したことによって~~~できた(←~~~の要因)ためと考える。

※ 「~~~できた」は、手立ての意図になることが多い。  
※ だめな例  
<ダイエットの事例で>  
手立て「カロリーを消費するための筋トレと運動」に対して  
⇒「カロリーを消費することができた。それは、筋トレと運動をしたためである。」  
⇒「筋トレと運動ができた。それは、カロリーを消費したからである。」

手立ての記述を書き直しただけ。何の説明にもなっていない。

### 【資料②】

☆ 最近思うこと・・・

<同好会について>

- 〇 若手の入会、頑張る若手、会への参加が増えてきた。とてもうれしい。
- 〇 まずは、若手同士つながる。そして、いろんな指導者層と関わり、自分を高めてほしい。
- ⇒ どんどん同好会が活気あるものになればいいな・・・。

<自己研鑽について>

- 〇 若いときにしやすいことを、若いからこそできることを頑張ってほしい。(実物を見に行く、一人フィールドワークをするとか)
- 〇 子どもには、実社会と出わせてほしい(実物、人)。そういう実践を見ると、わくわくする。
- 〇 働き方改革が叫ばれるが、自己研鑽は、教員の義務だと思う。同好会に参加する、体験記録等の書き物に挑戦するなど、自分を高める取組を積極的に。
- 〇 教員は、言葉のプロであるべき。言葉で、人を動かす、心を動かす。書き物は、社会科だけでなく、教師としての言葉の力を高める。

<社会科について>

- 〇 子どもに面白いと思わせて一歩目、知識・技能を身につけて二歩目、思考・判断できる授業を実現できて一人前、成果分析や理論を身につけて一流。

### 【資料③】